

米国 生産は広がりを持った拡大に(06年4月鉱工業生産)

発表日：06年5月16日(火)

～製造業の堅調持続～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)							設備稼働率	生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	製造業 (NAICS)		
05/04	▲0.1	(+3.1)	+0.0	+0.1	▲1.6	+1.7	▲0.1	▲1.7	+79.7	+78.0	+0.1
05/05	+0.2	(+2.4)	+0.4	▲0.7	▲0.2	+1.9	+0.3	+0.8	+79.8	+78.1	+0.1
05/06	+0.8	(+3.7)	+0.4	+0.9	+5.2	+1.0	+0.2	+2.4	+80.3	+78.2	+0.1
05/07	▲0.0	(+3.1)	+0.2	▲1.0	▲0.1	+2.2	+0.1	▲2.0	+80.2	+78.2	+0.1
05/08	+0.3	(+3.1)	+0.4	▲0.6	+0.3	+3.0	+0.2	+3.6	+80.3	+78.4	+0.1
05/09	▲1.3	(+2.0)	▲0.5	▲9.0	▲0.3	+1.6	▲0.5	+2.8	+79.1	+77.8	+0.1
05/10	+1.1	(+2.4)	+1.8	▲1.3	▲2.0	+1.0	+1.9	▲0.0	+79.9	+79.1	+0.1
05/11	+0.9	(+3.2)	+0.8	+4.5	▲1.0	+3.7	+0.4	▲4.6	+80.5	+79.6	+0.1
05/12	+1.0	(+3.5)	+0.4	+2.6	+4.2	+1.6	+0.4	▲1.3	+81.1	+79.7	+0.1
06/01	▲0.1	(+3.2)	+0.9	+2.3	▲10.0	+0.1	+0.9	+2.6	+80.9	+80.2	+0.2
06/02	+0.4	(+3.2)	▲0.2	+0.7	+5.9	+1.2	▲0.3	▲1.0	+81.1	+79.9	+0.2
06/03	+0.6	(+3.8)	+0.5	+0.9	+0.7	+1.3	+0.6	+1.5	+81.4	+80.1	+0.2
06/04	+0.8	(+4.7)	+0.7	+0.9	+0.9	+1.6	+0.7	▲1.1	+81.9	+80.5	+0.2

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

鉱工業生産は前月比 +0.8%と市場予想を 上回った

06年4月の鉱工業生産は前月比+0.8%とプラス幅が拡大し、市場予想の同+0.5%を上回った。鉱業が堅調さを維持するなかで、製造業、公益が加速した。世界的に企業部門の活動が活発化しているなかで、生産は広がりを伴って拡大している。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+5.3%と3月の+5.4%から小幅鈍化したものの、高い伸びを維持しており、生産は好調を持続している。製造業は、一般機械、ハイテク、航空機等の拡大により前月比+0.7%と加速した。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+4.4%（3月+5.9%）と高い伸びを維持しており、製造業の堅調が持続していると判断される。

3月の稼働率は、生産能力が前月比+0.2%と拡大した一方、生産が同+0.8%となったため81.9%と市場予想を上回った。他方、製造業の稼働率は80.5%と上昇した。

拡大した製造業生産 は19業種中15業種 に増加

業種別では、鉱業は強い需要によって、前月比+0.9%と高い伸びが持続した。公益は、天然ガスが同▲2.5%となった一方、電力が同+1.6%と上昇に転じたため、全体でも同+0.9%と加速した。

製造業は、前月比+0.7%と加速した。拡大した業種数が19業種中15業種と3月の11業種から増加しており、広がりを伴った拡大となっている。セクター別にみると、自動車関連の生産は、自動車部品が前月比+0.5%に鈍化し、完成車が同▲2.0%となったため、同▲1.1%と再び縮小した。一方、堅調が持続しているハイテク関連は、半導体が同+0.5%に減速したものの、通信機器が同+4.5%、コンピューターが同+0.5%と加速したことにより同+1.6%（3月同+1.3%）と拡大ペースが速まった。基調を示す3

ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも3月に+13.8%（3月同+15.7%）と高い伸びを維持しており好調が持続している。

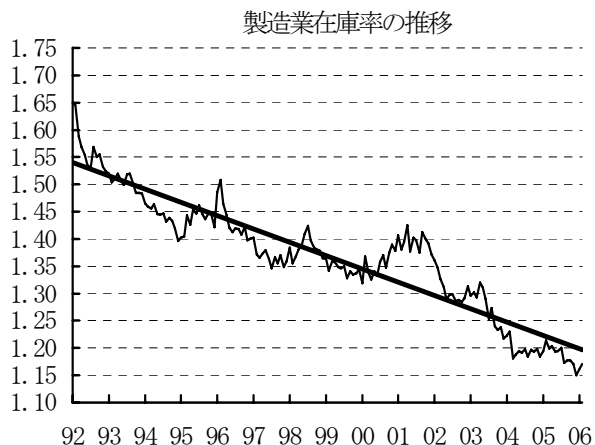
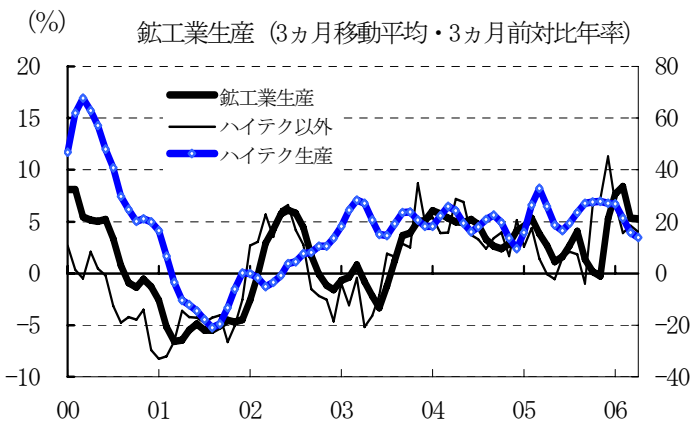
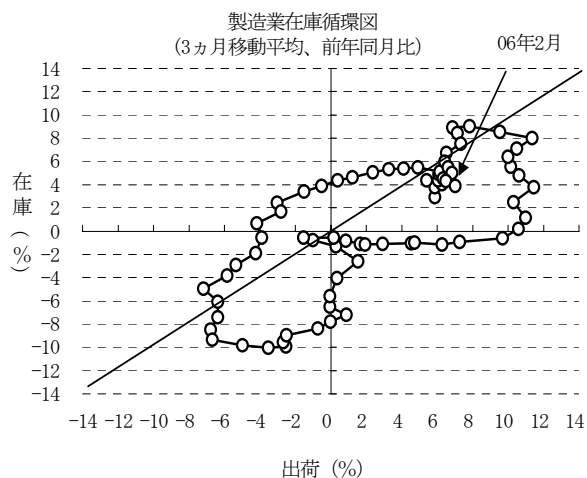
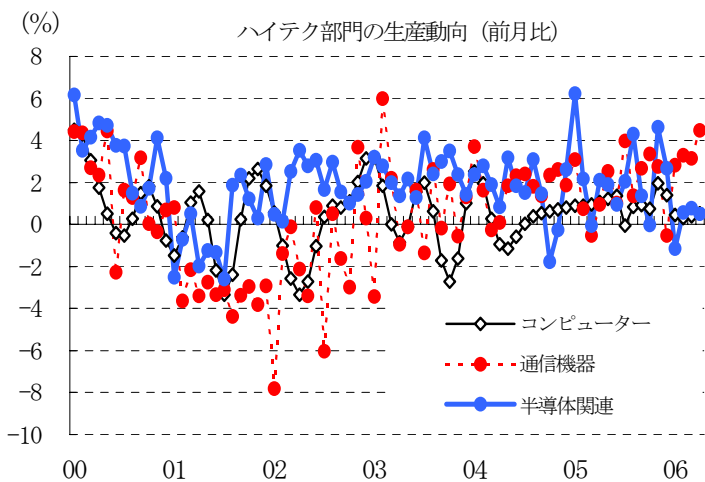
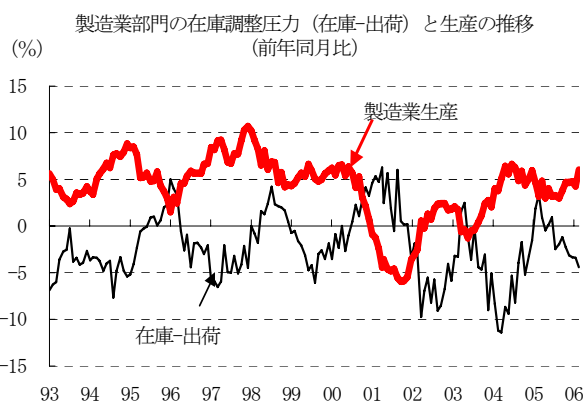
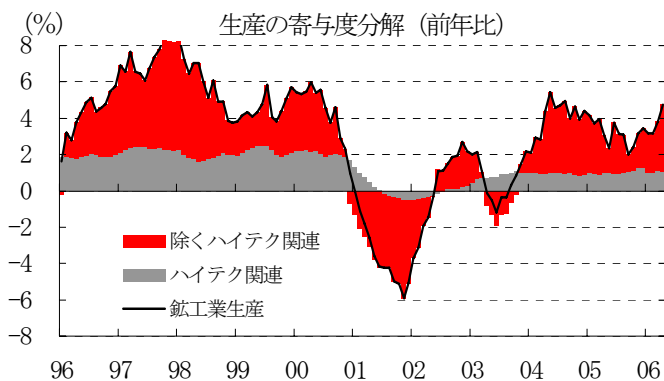
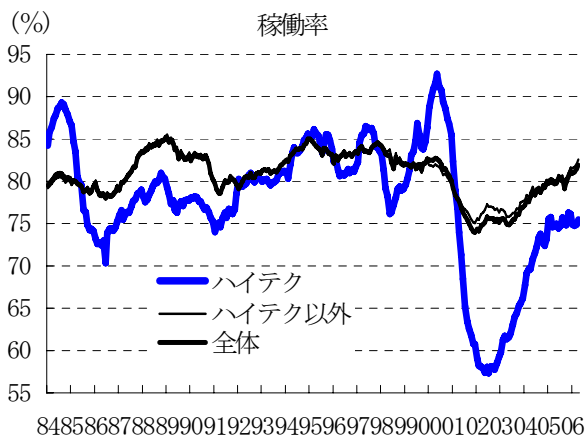
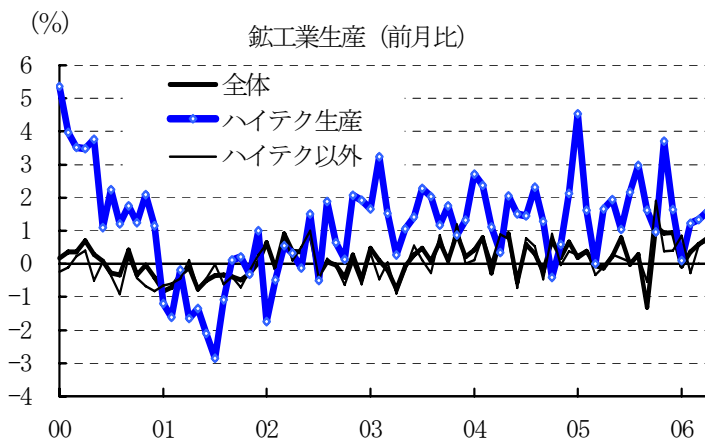
2006年4～6月期も 製造業生産の堅調が 見込まれる

今後の動向では、4～6月期の個人消費は雇用・所得の増加が続くなか、住宅部門からの資金調達の拡大ペース鈍化やガソリン価格の上昇等により同+3%の安定的な拡大ペースになると見込まれる。住宅投資は、4～6月期には金利上昇の影響で縮小すると予想される。7～9月期も上記のような動きが持続することで減速感が小幅強まるとみられる。

設備投資は、堅調なペースでの成長持続によって期待収益率が高い水準を維持するもと、①コスト削減圧力の強まりによる効率化投資需要の高まり、②稼働率の上昇、③オフィスビル空室率の低下、④コンピューターの更新投資、⑤規制緩和に伴う通信業での光ファイバー投資計画の増加等によって投資需要は強い。また、資金調達面では、①キャッシュフローの増加、②株価の上昇、③信用スプレッドの縮小等投資を行い易い環境にあり、設備投資は当面堅調さを維持するとみられる。

このような最終需要のもと、4～6月期には在庫の拡大ペースが加速すると予想される。輸出は、海外景気の拡大ペース加速によって堅調さを維持すると予想される。

以上のことから、4～6月期の生産も堅調さを維持すると予想される。しかし、7～9月期には内需の鈍化に加えて、世界的な景気の減速を背景に、生産の拡大ペースは小幅鈍化する公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。